

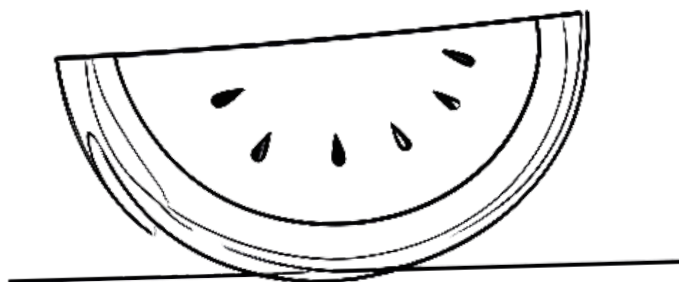
へてじゃーなる



OG/OB と学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとしてお届けしていきます。

INDEX

1. 未来社会デザイン棟大解剖記 / 加藤 緑
2. 新アクアリウム、2週間で3割緑減る / 金苗 慧真
3. 免許はまだない。 / 大成 夏生
4. 乾いた大地カザフスタン ～ 12 日間の短期研修振り返り～ / 結城 希
5. インド GOGOGO! / 山田 久美子



1. 未来社会デザイン棟大解剖記



夏の暑い日が続きますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。と、言いたいところですが、筆者は7月中旬から1カ月間、那須塩原にいたためつくばの灼熱から逃れていました。山と川に囲まれた温泉旅館に住み込みで働いていたのです。いわゆるリゾートバイトですね（本誌2024年度冬号で書いたことを有言実行！）。時折シカやサルなどの野生動物を見かけるのどかな田舎で、最寄りのスーパーまでなんと徒歩3時間かかります。この事実を初めて知った時は衝撃を受けたと同時に絶望しました。



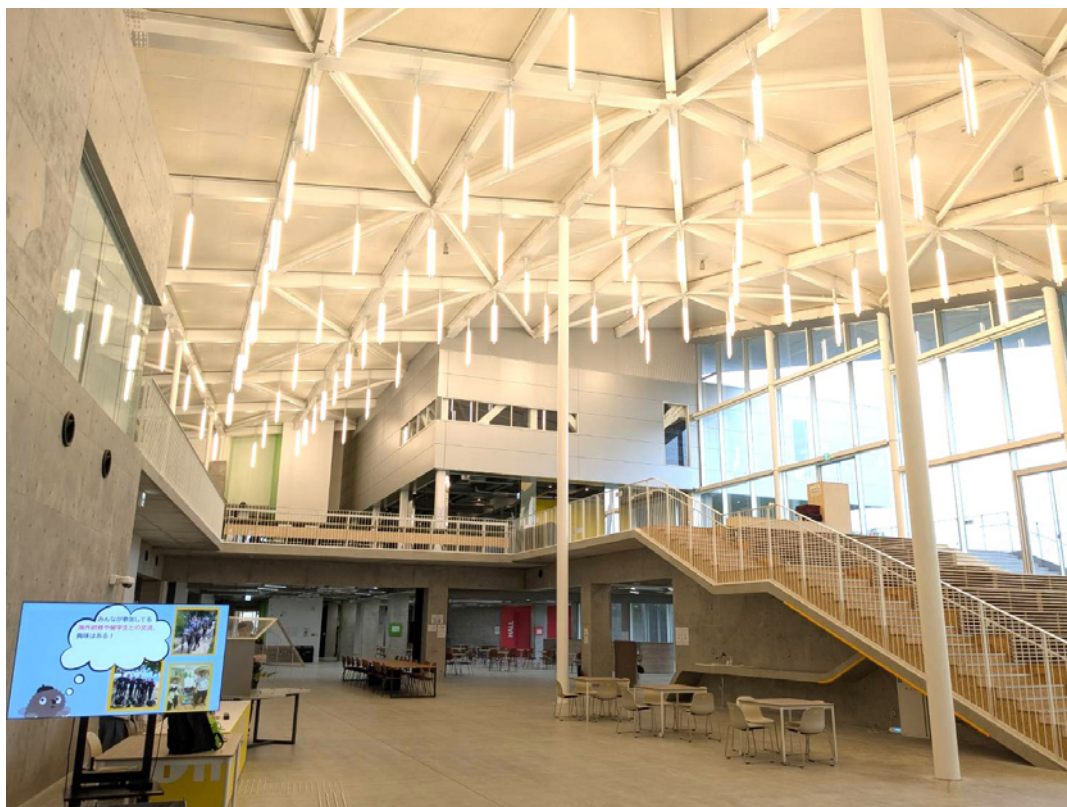
住んでいた社員寮から旅館に行く途中の道

そんな絶望エピソードはさておき、今回は暑さも吹き飛ばせるくらいワクワクする話をお届けしたいと思います。

皆様は「未来社会デザイン棟」をご存じですか？これは学内に新しくできた共創拠点です。いかにも未来好きの筑波大らしい名前ですね。今回はこの謎多き施設を解剖していきます。棟の紹介だけでなく、その特殊な運営体制についても紹介します。

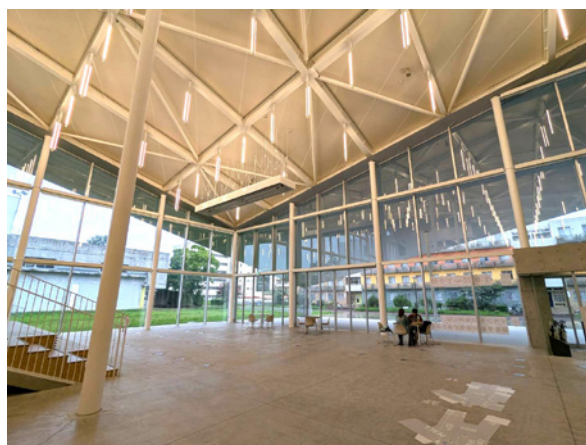
平砂エリアに突如として現れた巨大な建物！？

未来社会デザイン棟は今年3月に竣工し、6月から本格運用が始まりました。所在は平砂エリアで、平砂生活センター（共用棟）の裏、平砂1号棟の目の前に位置しています。愛称は「HIRA-NOVA」（ひらのば）ですが、愛称が決定するまでの間に学生の間で「みらしゃか」と呼ばれていたもので、今も筆者を含め「みらしゃか」と呼ぶ人が圧倒的に多いです。



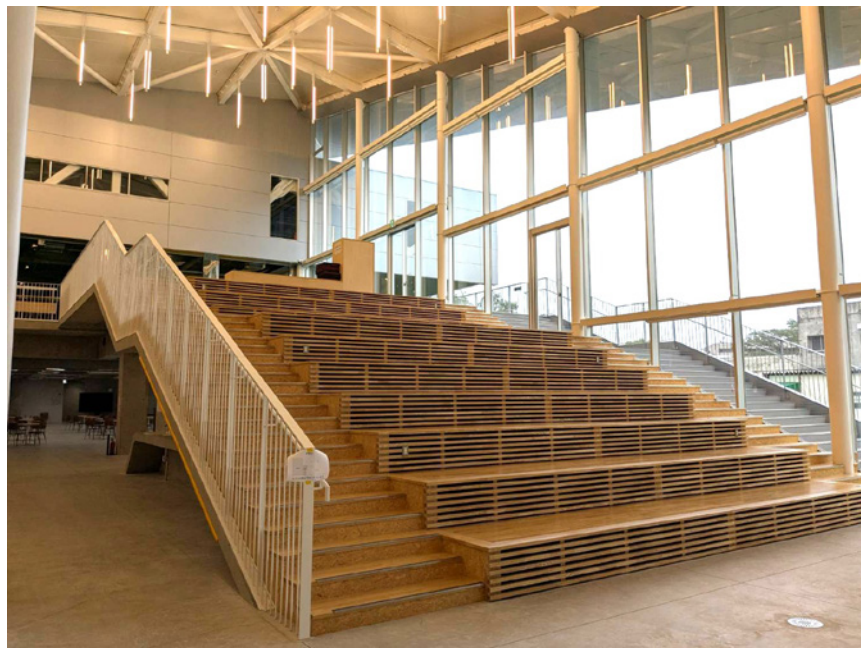
正面口から入ってすぐの開放感あふれる空間

未来社会デザイン棟は「学生・研究者・企業・地域社会が一つ屋根の下に集い、未来の社会課題解決に向けたイノベーションをともに創造します」を理念に作られ、それが棟の隅々に体现されています。



中から外がよく見えます。右側に見えるのが平砂1号棟です

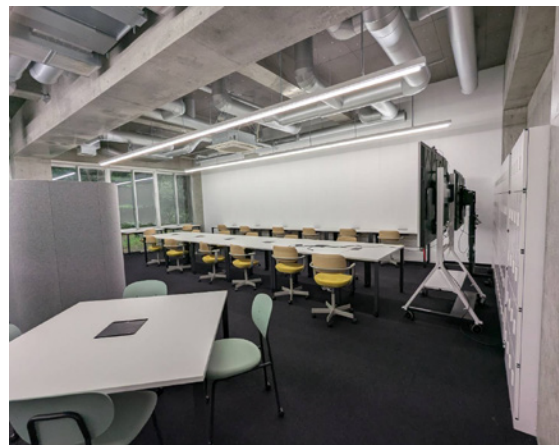
まず、理念の通りこの棟には大きな屋根があります。また、ガラス張りになっているため外から中がよく見えます。あるいは中からも外がよく見えます。正面口から入ってすぐに目を引くのが右にある大階段です。



大階段

これは階段状になっている座席です。そこに観客が座って大階段前のスペースでパフォーマンスや講演などを見ることができます。今年の5月30日に行われた開所式はまさにここで開催され、大階段は国会議員や市長などの来賓で埋め尽くされるというなかなか見られない光景が広がっていました。

大階段の横を進むと、右側にコミュニケーションスペースというオープンスペースがあります。そこには椅子や机が設置され、自由に歓談やディスカッションなどで利用できます。



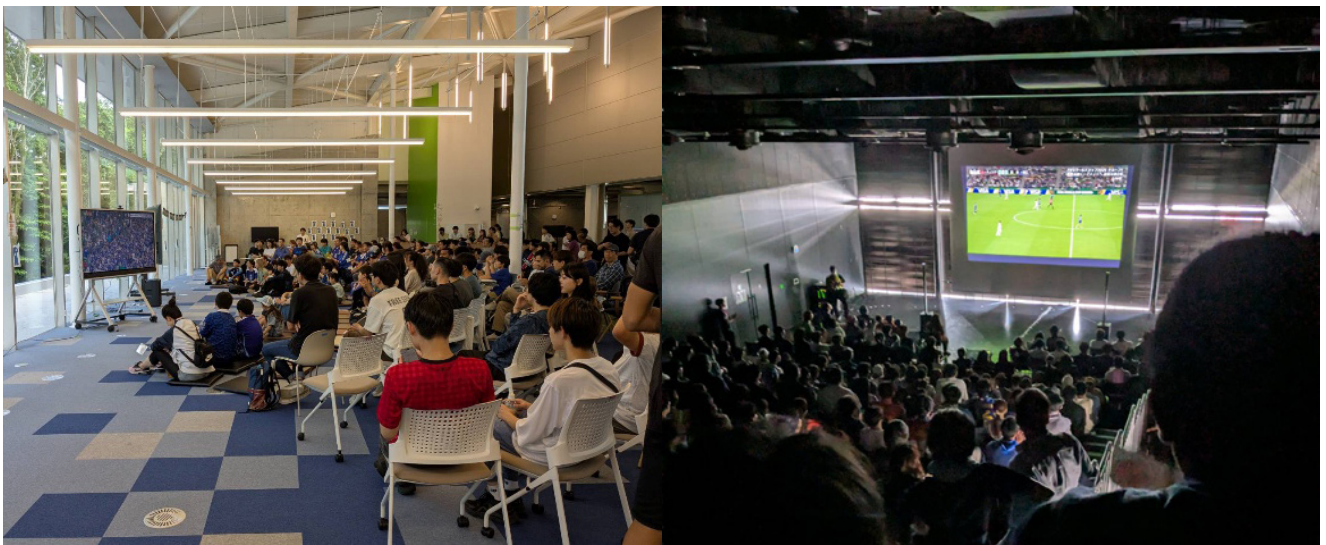
コミュニケーションスペース（左）とシェアオフィス

コミュニケーションスペースの向かい側にはシェアオフィスがあります。企業が入居し、学生との接点を作り出す場になるそうです。シェアオフィスをさらに進むとクリエイションスペースがあり、そこには大判印刷機や3Dプリンターがあり、創作活動に使えるようになっています。



イベントホールが目立つ赤い扉

1階の一番右奥には入口からも見える目立つ赤い扉があります。そこはイベントホールです。約300人を収納でき、パフォーマンスや演奏などで利用できます。座席は収納することができ、収納するとホール全面はバスケットボールコートほどの広さになります。そこで運動系の体験活動を開催できます。また、電気を消すと真っ暗になるため、映画館のような雰囲気を作り出すこともできます。大きなスクリーンとプロジェクターがありますので、映画鑑賞会を開催してもいいですね。ちなみに6月に行われたサッカーW杯の日本対チュニジア戦は未来社会デザイン棟全体を使ってパブリックビューイングが行われ、このイベントホールも会場でした。筆者も見に行きましたが、会場が一体感に包まれ、とても盛り上がっていました。



サッカーW杯パブリックビューイングの様子。
左は2階のオープンスペース、右はイベントホール

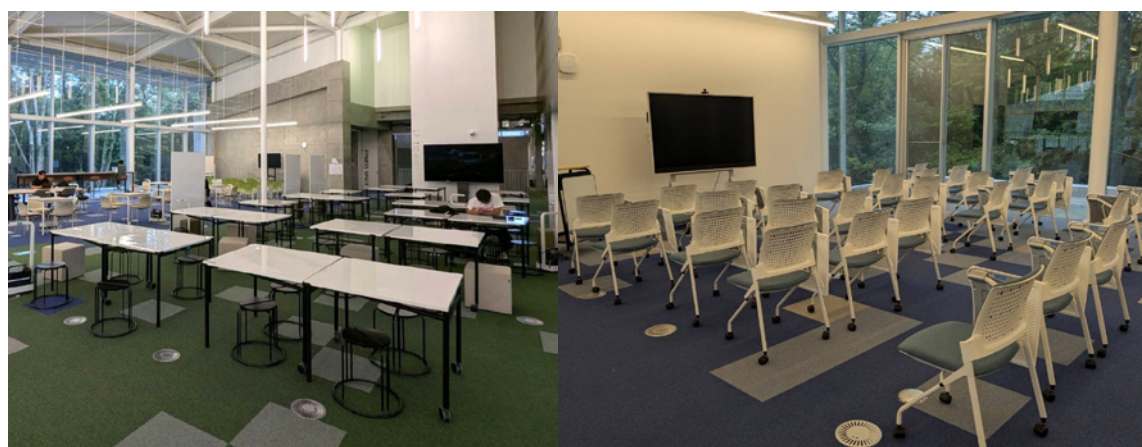
次は2階に行きましょう。大階段を上った先にはリフレッシュスペースが見えます。ここでくつろぎながらたわいもない話をするのに最適です。少し進むとコモンズデスクがあり、学生交流課と国際局の職員が留学や国際交流イベントなどについて相談に乗ってくれるスペースです。



リフレッシュスペース（左）とコモンズデスク

2階の中央から北側にはオープンスペースが広がっています。グループワークスペースでは椅子と机が並べられ、ディスカッションやワークショップを行うのに適しています。このスペースの特長は、置いてある机がホワイトボードでもあることです。議論を進めながらアイデアをすぐに書けるのがいいですね。

北にはプレゼンテーションスペースがあり、講義やセミナーを行うことができます。その奥にはフィットネススペースがあり、ジムとしての利用を予定していますが、9月現在まだ稼働していませんが、今後利用できるようになります。



グループワークスペース（左）とプレゼンテーションスペース

どのスペースも、机と椅子の移動が自由です。これを支える重要なポイントがあります。それはずばり、移動のしやすさです。椅子はそもそもそこまで重くないので元から移動に苦労しませんが、問題は机ですよね。未来社会デザイン棟の机の四つの脚のうち、二つにタイヤが付いています。そうすることによってタイヤが付いてない側を持ち上げるだけで移動することができます。そして下ろせば二つの足はタイヤがないので固定されます。

棟内には机と椅子だけでなく、ホワイトボードやディスプレイも自由に利用・移動することができます。

余談ですが、今年度の役員紹介ページで使われた役員の写真は未来社会デザイン棟で撮影されました。気になる方はぜひチェックしてみてください！

<https://www.tsukuba.ac.jp/about/president-staffs/>

事業推進チーム

未来社会デザイン棟は建物だけでなく、運営体制も特殊です。学生主体で運営されていて、現在約30人からなる事業推進チームがそれを担っています。そして何を隠そう、実は筆者も事業推進チームの一員です。

筆者は事業推進チームの企画部に所属しています。主な業務は新しい企画を立てて実行することや、企画を立てたい学生などの利用者のサポートをすることです。

事業推進チームには企画部の他、人事・財務部、営業部、総務部、広報部があります。企業みたいな感じですね。メンバーは皆とても優秀で、日々のやり取りを通じてたくさんの学びを得ています。学園祭実行委員会や全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議（全代会）、新歓祭実行委員会（新歓委）などの出身者が多く、それぞれの所属先でいろいろ経験してから来ているため、百戦錬磨の集団です。また、複数の顔を持つ人が多く、どこかの組織の委員長経験者かと思いきや、友人と一緒に起業していたり、サークルの代表だったり、話すたびに新しい身分が明らかになる勢いで皆さんいろいろな活動をしています。

また、それぞれの専門を生かして組織に貢献しているのも素晴らしい点です。例えば情報系が専門の人はウェブサイトを作ったり、プログラミングを利用してシステムを構築したりします。芸術系の人にはポスター作成したり、デザイン面でアドバイスしたりしています。一つの企画を作り上げる際は部局を超えて協力し合うのが、個人的に素敵だなと思うところです。筆者も企画を実施した際に他部署の人にたくさん助けられました。

さて、このようにいろいろな人たちが一丸となって一つの組織を作り上げているわけですが、他のところと異なる決定的な点が一つあります。それはつまり「前例がない」です。大学の施設を学生主体で運営することも、「施設」ととどまらない建物の運営も、全国的に見ても例がありません。そのため、今いるメンバーでゼロから作り上げていきます。

これは筑波大学学生歌『常陸野の』に通ずる点があると思います。「常陸野の 原野を拓き 真白なる 塔そびえたり」から始まるこの曲は、何もなかったところに先人たちがこの常陸野の原野を切り拓き、ハード面もソフト面もゼロから筑波大学を作り上げたことを語っています。これはまさに我々未来社会デザイン棟事業推進チームが今やっていることではないか、と常々思います。未来社会デザイン棟もゼロから始まり、手探りの状態で棟の理念を達成できるよう日々努力しています。

ここまでご覧いただき、皆様はきっと未来社会デザイン棟に一度足を踏み入れたくなりましたよね？未来社会デザイン棟は誰でも自由に出入りできますので、つくばにいらっしゃる機会があればぜひ立ち寄ってください。そして、10月31日には未来社会デザイン棟でホームカミングデーが開催されます。今年は学群2001～2003、2017～2022年度入学、大学院2005～2007、2021～2024年度入学生が対象です。筆者は2022年度入学ですので、参加対象に含まれています。対象者の皆様はぜひこの機会にお越しください！未来社会デザイン棟でお待ちしております！

参考文献：

ペデジャーなる2024年度冬号

https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/application/files/4217/4158/4653/2025_56.pdf

最終閲覧日：2026年8月5日

筑波大学学生歌「常陸野の」

<https://www.tsukuba.ac.jp/about/public-branding/studentsong/>

最終閲覧日：2026年8月5日

筑波大学ホームカミングデー公式サイト

<https://hcd.sec.tsukuba.ac.jp/>

最終閲覧日：2026年8月5日

学生×地域×企業がつながる施設「未来社会デザイン棟」開所式を開催 ～学生が中心となつて運営する新たな共創拠点の始動～

<https://www.tsukuba.ac.jp/news/20260601150000.html>

最終閲覧日：2026年9月17日

(人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻1年 加藤緑)

2. アクアリウム、2週間で3割緑減る



コンビニを見つけると、用事もないのについ入ってしまう季節になりました。お目当ては商品ではなく、冷房です。これも夏ならではの風物詩かもしれません。

つくばではそんな夏の風物詩がもう一つあります。それは、筑波実験植物園で行われた「水草展2026—水辺を生きる多彩なかたち—」です！



図1 入ってすぐの教育棟、水草展が賑わう様子

◎水草って？

「水草」と聞いて、皆さんはどのようなものを思い浮かべますか？
私は千葉市民なので、「ちはなちゃん」を思い浮かべました。著作権の都合上ここには載せられないのですが、気になる方はぜひ調べてみてください。ちはなちゃんは、千葉市で発掘された古代ハス「大賀ハス」の花をモチーフにしたマスコットキャラクターです。

では、そもそも「水草」とは何なのでしょう。『ブリタニカ国際大百科事典』で「水草」を調べてみると、「水中に生える植物の総称」と説明されています。一般的には藻類とは区別され、水中や水辺で生活する維管束植物を指します。例えば、タヌキモ、マツモ、スイレン、ウキクサなども水草の仲間です。名前に「モ（藻）」と付いていても、必ずしも藻類というわけではないそうです。それでは、実際に水草を見に行ってみましょう～！

◎水草をさわってみる

入口近くの教育棟を出て道なりに進むと、水草展の展示が行われている研修展示館が見えてきました。まず出迎えてくれたのは、水草のプールです。ここでは、展示されている水草を実際に触ることができます。普段、水草をじっくり触る機会はなかなかありません。私も興味津々です。では、3つご紹介していきます！

① 葉っぱがふわふわした水草

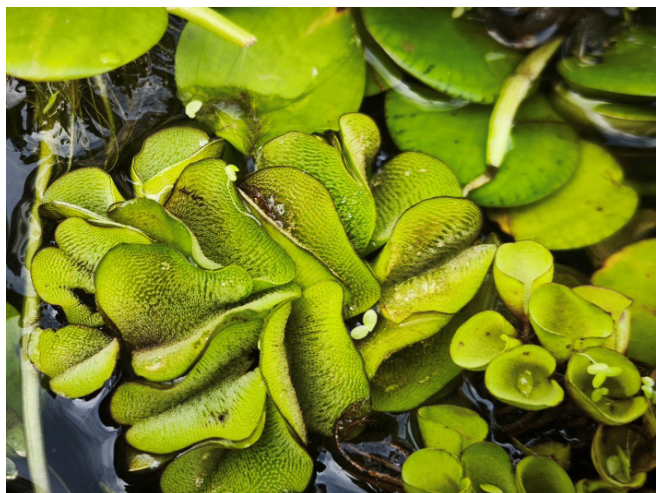


図2 サルビニア・ククラータ（サンショウモ科）

細かい毛が水をはじいて浮きます。触ってみるとふわふわしていて気持ちがいいので、私のお気に入りです。

② 花の形がかわいい水草

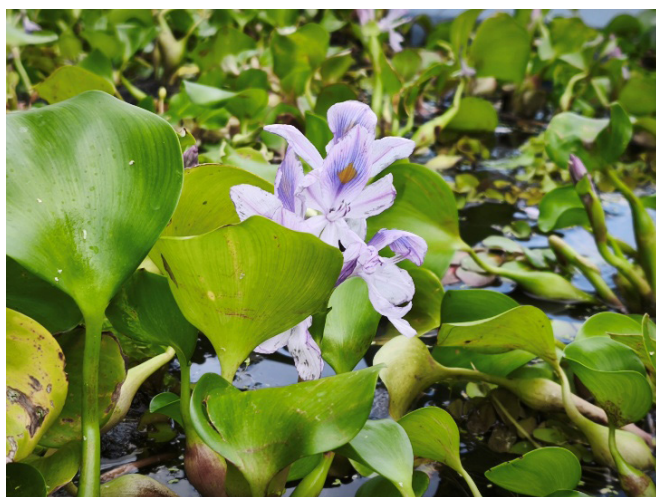


図3 ホテイアオイ（ミズアオイ科）

茎の方をよく見ると膨らんでいますね！ここに空気が入っていて浮袋の役割を果たすそうです。

③ レンコンみたいな水草



図4 ウキバルドヴィジア（アカバナ科）

根が膨らんで、中に空気を含んで浮きます！レンコンみたいです。

◎研修展示館

研修展示館のなかでは、水草の細かい展示が行われていました！体験型の展示も多く、賑わっています。研修展示館の中では、水草の葉っぱを使ったしおりづくりも体験できました！

参加しているのは子どもたちが中心でしたが、大人の姿もちらほら。私も子どもたちに混ざって、しおりづくりに挑戦しました。まずは、乾燥させた水草の中から好きなものを4枚選びます。



図5 乾燥した水草(クロモ・キクモ)

選んだ水草を台紙の上に並べ、それぞれの名前を書いていきます。ラミネートシートの上に水草を並べるのですが、静電気で水草を動かすのが少し大変でした。



図6 水草の名前紹介 それぞれの水草が全然違って面白い！

作業中はボランティアの方が丁寧に手伝ってくださったので、初めてでも迷うことなく作ることができました。さらに、水草展のマスコットキャラクターのスタンプを押して、最後にラミネートしたら完成です！かかった時間は20分ほど。そして、完成したしおりがこちら！

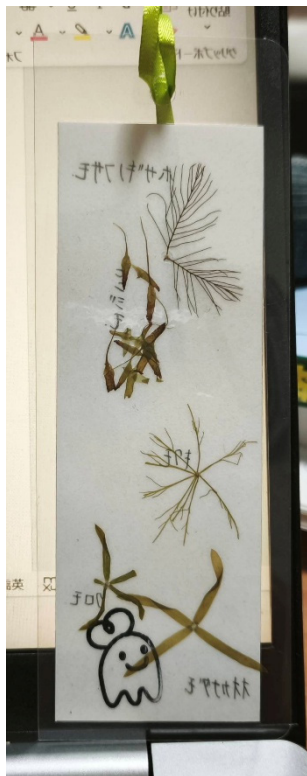


図7 穴をあけて、リボンを通したしおり

あれ？色あせてる？かわいくて、ポーチに入れて飾ってます！ボランティアの皆さんありがとうございました！

◎アクアリウムづくり

会場では「みんなで植えるアクアリウム」も行われていました。せっかくなので、私は自分で作って持ち帰ることのできるアクアリウムづくりに挑戦してみました！まずは容器選びです。いくつかの種類から好きなものを選ぶことができます。私は、一番お手頃で育てやすそうなコンパクトサイズの器に決定。1200円くらいです。それでは、植えていきます！まずは、容器の底に栄養剤を置きます。



図8 左にあるのが栄養剤

続いて、土を入れます。土の色は2色から選ぶことができました。黒を選択しました。



図9 茶色も捨てがたい

次は、石のレイアウトです。「水にぬれたらどんな色になるのかな」と想像しながら、ピンセットを使って石を並べていきます。



図10 流木も入れてみた

……ところが、ここで問題発生。石を置きすぎて、水草を植える場所がほとんどありません！少し石を減らして、なんとかレイアウトが完成しました。続いて水を入れ、いよいよ水草を植えていきます。



図11 水を入れるとまた違った雰囲気

ピンセットを使って一本ずつ植えていくのですが、これが意外と難しい……。



図 12 今回植えられる水草たち

さらに面白かったのが、水草によって切り方が違うことです。スタッフの方によると、途中で切ると枯れてしまうものがある一方、切っても育つものもあるそうです。水槽の大きさに合わせて、切っても大丈夫な水草はハサミで長さを調節していきます。途中で茎を折ってしまったり、うまく土に入らなかったりと苦戦しましたが、なんとか植え終わりました。デザイン性やレイアウトの美しさには自信がありませんが、自分で一から作っていくのはかなり楽しいです。そして、ついに完成！私が作ったアクアリウムがこちらです。



図 13 特にこだわりはありません

ちなみに、会場に展示されていたモデルアクアリウムはこちら。



図 14 ちゃんと緩急のついた草の生えかた

さすがプロは違う……（笑）。2000円で買うこともできるみたいですね！完成後は一度水を抜き、箱に詰めて持ち帰ることができます。家に帰ったら、再び水を入れます。ここで注意！勢いよく水道水を注いでしまうと、土が舞い上がり、せっかく植えた水草が抜けてしまうかもしれません。水をお椀などに注いでからゆっくりと水を入れるのがポイントです。私は勢いよく水道水を注いで、流木が浮いてきたり、水草の茎を折ってしまったりしました(;▽;)そして——2週間後！



あれ、若干緑が減ってる？（笑）家に帰って勢いよく水を入れたときに折れてしまった水草は枯れてしまいました。ホームセンターに行って水草を買いに行こうかなと思います。今のところ虫が発生することもなく、思っていた以上に育てやすいです。家の中に植物があるのは見ていて楽しいです♪

◎こんなものが買える！

水草がビニール袋に入って販売されていました。一袋2000円～3000円でびっくりしました！昼ごはん2食分ですね！水草って意外と高いと勉強になりました。作ったアクアリウムの水草も大事に育てたいです。



図 15 売られ方が面白い

たくさんのアクアリウムが販売されていました。きれいすぎる～。



図 16 販売されているアクアリウム

レースプラントも販売されていました。太陽の光が当たるときれいです。

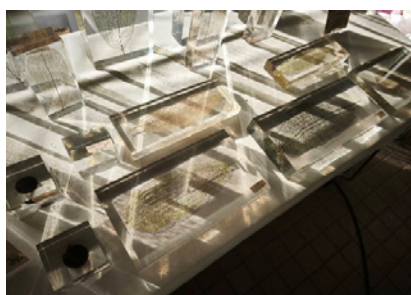


図 17 レースプラント

◎まとめ

今回は参加できませんでしたが、水草についてさらに深く知ることのできる講演会なども開催されていました。筆者も申し込もうしたら、満員でした。人気みたいなので、すぐに予約がおすすめです！ぜひ講演会にも参加してみたいです。

以上、金苗からでした！

(情報学群 知識情報・図書館学類 4 年 金苗慧真)

参考文献

国立科学博物館 筑波実験植物園「水草展2026—水辺を生きる多彩なかたち—」筑波実験植物園ウェブサイト, 2026年, <https://tbg.kahaku.go.jp/tenji-event/nid00004119.html> (2026年8月31日閲覧)

田中法生「水草は水環境へどのように適応しているのか？」国立科学博物館, 2025年7月30日, <https://www.kahaku.go.jp/news/nid00000195.html> (2026年8月31日閲覧)

国立科学博物館 筑波実験植物園「水草展2024」, 2024年, <https://tbg.kahaku.go.jp/plan/2024/08mizukusa/> (2026年8月31日閲覧)

筑波実験植物園「水草展2026です！」『水草ブログ2026』, 2026年7月6日, <https://tbg.kahaku.go.jp/mizukusa/nid00005383.html> (2026年8月31日閲覧)

『ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典』「水草」, <https://japan-eb-com.tsukuba.idm.oclc.org/article-11587300> (2026年9月1日閲覧)

3. 免許はまだない。



■はじめに

はじめまして。今年度より執筆させていただく比較文化学類2年の大成夏生です。大学生の夏と言えば免許合宿。ということで8月に地元・和歌山へ帰省した際、自動車教習所に通いました。今回は、そこでの体験談をお伝えします。

■筑波大生と車

ご存じのとおり、筑波大生の間で自転車は「人権」と呼ばれています。ですので、タイヤがパンクしたりして使えなくなった場合は人権を失い、つくばでの生活はかなり厳しいものになります。というのも、筑波大学のキャンパスは自転車がないと移動が不便になるほど広いです。特に離れた教室間の移動の際は、自転車がなければ15分間の休憩時間内に移動することが難しいです。

つくば市は公共交通機関が東京ほど発達してないため、車が大変重要になってきます。ちょっと遠いところに行きたい場合や、大きな買い物をしたい場合は自転車だけでは足りず、車が必要になってくる場面が多いです。

ただ、普段の生活で車を使う筑波大生はあまり多くない印象です。実際、大学が実施した学生生活実態調査（令和4年度）によれば、雨天時以外の交通手段で自家用車を使用する筑波大生は、8%ほどで、雨天時でも約9%です。車を持つとなると駐車場が必要ですし、そもそも車は安いものではありませんよね。大学生にとって、車はなかなか手が届かないものでしょう。とはいえ、筆者の周りでは、1年生や2年生の長期休暇に免許を取得している人が多いです。夏休みに合宿で取ったり、つくばで「通い」のケースも耳にします。推薦入試で合格した学生は、入学前に取ることができます。羨ましい限りです。3年生になると就活が始まり、免許どころじゃなくなりますので、免許を取りたい学生は2年生までに取っておくと安心できますね。



【天久保池周辺の交差点。信号が無い上に夕方などは交通量が多く、自転車と車が衝突しそうな瞬間をよく見かける。】

■ハンドルを握ると、思ったより難しい

教習所のコースは「通い」と「合宿」があるのはご存知の通りです。ほとんどの学生は夏休みや春休みなどまとまった休みがある時期に合宿で免許を取ります（筆者調べ）。友達やサークル仲間と一緒に免許合宿に行くパターンも周りに多いです。

筆者は8月11日から24日までの14日間、地元・和歌山の自動車教習所に通いました。合宿ではなかったので通いといえど通いですが、最短2週間で教習を終える集中型の「短期コース」というのを利用したため、期間は合宿と同様です。教習前は、車はアクセルとブレーキを踏み、ハンドルを回せば思い通りに動くものだと考えていました。考えが甘かったですね。実際に運転席に座ると、思った通りに操作することは簡単ではありませんでした。

特に苦労したのが、場内教習のS字とクランクです。この2つの教習では、ブレーキを緩めながら進むよう指示されましたが、脱輪することへの不安から、ハンドルとブレーキを操作するタイミングが何度もずれてしまいました。ハンドルを切るのが遅れると速度が速くなり、外側に寄ってしまいます。その結果、右前輪が脱輪したこともありました。教官からは「なんでハンドルとブレーキを同時に操作しやんねん」「まずはコース全体を見渡して、どう運転したらええかイメージせなあかん」ときつい関西弁で指導されました。何度も叱られながらも、コースに入る前にカーブ全体を見て曲がり具合をイメージし、焦らずハンドルとブレーキを同時に

操作するようにしてからは、徐々に脱輪せず通れるようになりました。

私は関西人なのでなんの問題もなく聞き取れますし、多少きつい言い方をされても平気ですが、関東から合宿で来ていた人たちは、指導員が話す関西弁に苦労させられたはずです。関西の教習所に通う予定の方は、このあたりのことを頭に入れておくと無難でしょう。

学科教習はほぼ全てがオンデマンド形態で、最初にビデオを見た後、動画内で教官がテキスト通りに解説を進める形でした。解説する指導員を数人の中から選べたのですが、関西弁の指導員だと、聞き慣れた言葉だからかすぐに眠くなってしまうため、あえて標準語話者の指導員を選んで受講しました。居眠りせずに全ての授業を受け終えることができたのはそのおかげだと思います。

学科教習で印象に残ったのは「優先関係」です。交差点の優先関係は、条件が変わると混乱しがちでした。特に標識の意味を答える問題は、似たような意味の標識との区別を覚え切れていなかったため、間違えてしまうことが多かったです。「大学入学共通テスト（旧センター試験）より難しい」と言われる学科試験ですが、間違えた問題を中心に問題集を繰り返し解き、本番では問題文を最後までよく読み、引っかけ問題に引っかからないように意識したところ、無事に仮免学科試験に合格できました。

路上教習に出ると、場内とは違った難しさがありました。教習コースは地元の道なのもあり、道を覚えるのには苦労しませんでした。ただ、前方を走行する車が路肩に停車しようとしたり、自転車や歩行者がいたり、状況が次々に変化します。最初はそのたびに慌てましたが、教習を重ねるうちに早めに周囲を確認して速度を落とせるようになりました。たとえ信号が青色であっても、住宅街など自転車や歩行者の飛び出しリスクがある場所では速度を抑え、左右の安全を確認して進む必要があります。こうした状況に応じた判断ができるようになったことに、自分の成長を感じました。つくばには自転車に乗る学生がたくさんいますので、なおさら運転が難しいだろうと思いながら教習を受けていました。それに、大学周辺は街灯が少ない上、道路が踊るように波打っていて凸凹な道が多いですから、夜なんかに運転するのは困難を極めます。

19:44 教習手帳

戻る

教習の予約

日付	時間	教習
2026/08/11(火)	8 (15:30～)	模擬AT
2026/08/11(火)	9 (16:30～)	普通車
2026/08/12(水)	6 (13:30～)	普通車
2026/08/12(水)	8 (15:30～)	普通車
2026/08/13(木)	1 (08:30～)	普通車
2026/08/13(木)	3 (10:30～)	普通車
2026/08/14(金)	2 (09:30～)	普通車
2026/08/14(金)	10 (17:30～)	無線車
2026/08/15(土)	3 (10:30～)	普通車
2026/08/15(土)	8 (15:30～)	無線車
2026/08/16(日)	1 (08:30～)	普通車
2026/08/16(日)	2 (09:30～)	普通車
2026/08/17(月)	7 (14:30～)	普通車

メッセージ ムサシ SNS 教習手帳 コース

19:45 教習手帳

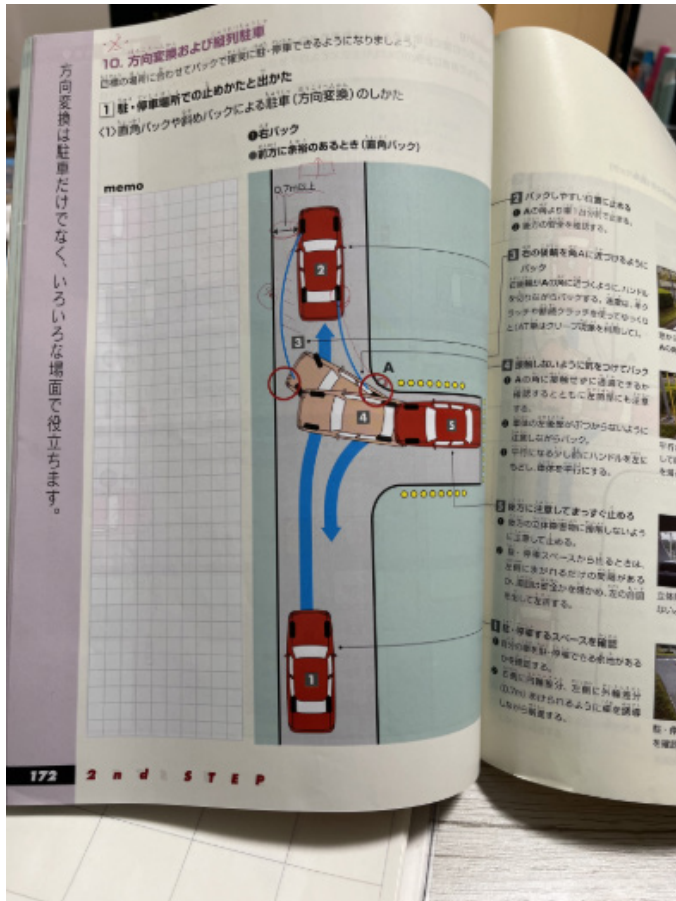
2026/08/18(火)	3 (10:30～)	普通車
2026/08/18(火)	7 (14:30～)	普通車
2026/08/18(火)	11 (18:30～)	普通車
2026/08/19(水)	3 (10:30～)	普通車
2026/08/19(水)	6 (13:30～)	普通車
2026/08/19(水)	10 (17:30～)	応急救I ⑭
2026/08/19(水)	11 (18:30～)	応急救II ⑮
2026/08/19(水)	12 (19:30～)	応急救II ⑯
2026/08/20(木)	6 (13:30～)	普通車
2026/08/20(木)	10 (17:30～)	P F AT
2026/08/20(木)	11 (18:30～)	P F AT
2026/08/21(金)	1 (08:30～)	普通車
2026/08/21(金)	6 (13:30～)	D I 1
2026/08/21(金)	7 (14:30～)	D I 2
2026/08/21(金)	8 (15:30～)	セット学科 ⑩
2026/08/22(土)	2 (09:30～)	普通車

メッセージ ムサシ SNS 教習手帳 コース

【教習の時間割。短期コースなだけあって、かなりタイトなスケジュールでした】

■卒検では柵に急接近

教習所に通い始めて14日目にやっと卒業検定までたどり着けました。検定となると、卒業が延びてしまうことへの不安もあり、普段の教習より一段と緊張しました。検定課題の1つ目は場内での右方向のバックでした。これを成功させなければ、路上検定を受けられません。駐車スペースへ入れようとバックする際、ハンドルを右に切るのが遅れ、車体の横側がスペースの左側にある柵にぶつかりそうになりました。もしぶつかっていればその時点で不合格だったので焦りましたが、そのまま無理に進まず一度停止して周囲を確認し、切り返して方向を変えることができました。その後の路上検定にも合格し、長いようであつという間だった14日間を終えました。



【卒検で失敗しそうになった右方向のバックについて解説された運転教本のページ】

■免許は取得できなかった

最後になりますが、夏休み中の日程調整がうまくいかず、本免学科試験を受験する日を確保することができなかったため、結局のところ、まだ運転免許は取得していません。

「夏休みの間に免許を取る」というつもりで始めた今回の教習でしたが、免許取得は次の機会に持ち越しとなりました。それでも、道路を見るときの意識は大きく変わったと実感しています。以前なら何も考えずに両親が運転する車に乗り、道路を単なる景色の一部としてしか見ていませんでしたが、「ここは見通しが悪そうだな」「ここは歩行者や自転車に注意せなあかんな」と考えるようになりました。

免許を取得し、実際に運転する際には、道路の状況判断をしながら運転できるドライバーになりたいと思います。

(人文・文化学群 比較文化学類2年 大成夏生)

参考文献

令和4年度学生生活実態調査(学群)報告書

<https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/support-lifesurvey/r4-undergrad.pdf>

(2026年9月6日閲覧)

4. 乾いた大地カザフスタン ～ 12 日間の短期研修振り返り～



新入生の入寮を歓迎して皆で歌を歌う

■はじめに

こんにちは。蒸し暑い毎日をなんとか生き抜いている結城です。ただでさえ生きるのに大変な気候というのに、学業や就活に追われてやってられないので、8月20日から31日まで中央アジアの大国カザフスタンに行ってきました。乾燥した気候と大陸の広々とした風景、美味しいご飯を求めて渡航した私はどのような体験をしたのでしょうか？

これまで日本やニュージーランドなどは主に一人で旅してきましたが、今回は物の試しということで「多文化共修 in カザフスタン」という大学の短期研修プログラムに参加しました。このプログラムはアルファラビ・カザフ国立大学のRecreational Geography and Tourism（地理観光）学部と共同で行われ、講義やフィールドワークを通して同国の国立公園で近年深刻化している「オーバーツーリズムによる環境負荷」という社会課題を考えるというものです。同大学の学生と一緒に国立公園や旧首都アルマトイ周辺で様々な実習を行いました。

今回はそんな12日間を時系列順に追いながら、カザフスタンやプログラム全体のまとめをしていきたいと思います。

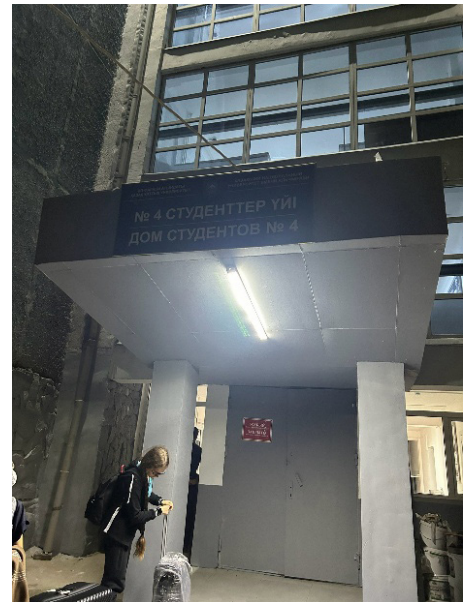
■大体のプログラムと出来事

- 1日目. 移動、成田空港から韓国の仁川空港を経由してカザフスタンはアルマトイ空港まで、衝撃の寮到着、茶色の水
- 2日目. 歓迎セレモニー、衝撃のチーズ、プログラム説明・講義、キャンパスツアー、カザフ版ダイソーに石鹸の買い出し
- 3日目. 運転は荒いが監視カメラはあるので横断歩道で止まってくれるアルマトイのシティツアー：カフェ、植物園、地下鉄、ゼンコフ大聖堂、ソ連時代を感じる戦争記念公園
- 4日目. ★イル・アラタウ国立公園ハイキング、滝、溪谷、キャンプファイヤー、テント泊
- 5日目. ★ハイキング2日目、パイプライン、ビッグ・アルマトイ湖、野犬、往復約20km
- 6日目. 時差4時間で挑んだオンライン面接、講義、プレゼン、エセンタイモール、KFC、食事改善の動議（体調不良者が出る中、数日間大学で提供されていたお弁当が常温放置されて悪くなっていた疑惑が持ち上がり、変更してもらうことになりました）

7日目. ★チャリン溪谷、草原、馬、砂漠、地平線、オアシス、スイカ、時速100kmバス。
8日目. コンチネンタルブレックファスト、サモア、講義、最終プレゼンへの準備、馬肉スープ、燻製酢？遊牧民の発酵飲料
9日目. ラグマン（カザフスタン焼きそば）、最終プレゼン、プログラム終了。山に川にの★乗馬ツアー、子犬、ユルト（ゲル）、お茶と揚げパン、安定の中華料理
10日目. 市内観光：おしゃれなカフェで外れを引く、ソ連戦車と触れ合える戦争博物館、バザール、最高のモスクと地域犬、めっちゃでかスーパー、サマルお姉さん、お見送り
11日目. ★市内観光withカザフ学生：ありえんほど美味しいタイ料理、要塞みたいなオフィスビル、アルマトイ美術館で草間彌生を感じる、コクトベ展望台から市内を見下ろす、スイカパーティー、空港へ
12日目. 帰国、暖かい便座とウォッシュレットは最高

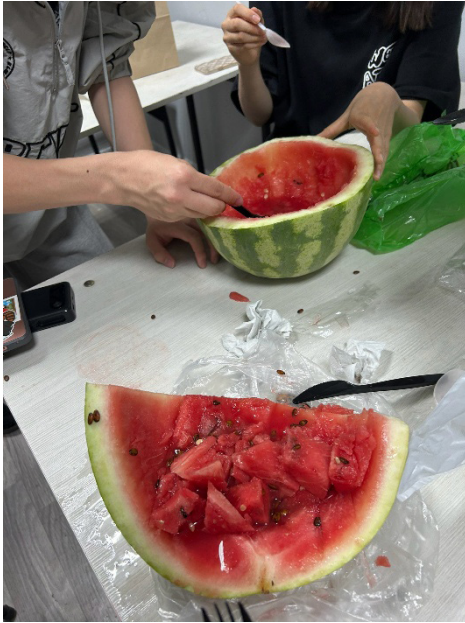
1日目：ソ連時代の寮

カザフスタン到着初日は深夜着だったので、空港から大学内の寮に移動しそのまま就寝となりました。寮は元々用意されていた新しい建物のシャワーが冷水しか出ないということで、古い方の建物に泊まることになりました。ソ連時代に建てられた寮はコンクリート打ちっばなしで物々しい鉄扉、口うるさい寮母さんと旧東側諸国らしい雰囲気でした。慣れれば意外と窓が大きくて気持ちよく（カーテンはなし）、断熱もしっかりしているなど良いところもありました。滞在中のアルマトイの気候は、最高気温はつくばと同じくらいで27~30℃くらいなのですが、最低気温は12~15℃まで下がり、夜でも20℃を下回らないつくばに比べて夜間の冷え込みが厳しく感じました。湿度が低いと日中は涼しく過ごせるのですが、夜間はより寒く感じるので窓を閉め切ると暑いぐらいの寮の部屋は快適でした。



ただ、階段の段差の高さがそれぞれ微妙に違っていて、上がりきる際に引っかかりがあるところはもっと頑張ってほしかったです。

数日後にカザフ大へ入学する学生（9月入学のため）が入居してくるので、その準備のためか建物内はペンキの匂いが立ち込めており、布団や枕なども共用スペースに積まれていました。



蛇口から出てくる水は最初茶色かったです。シャワーは共用でしたが湯量はたっぷりで気持ちよく浴びることができました。しかし寮母次第で日々違うタイミングでシャワー室が施錠されるため、一度強制風呂キャンさせられたのには閉口しました。ちなみにトイレにはトイレットペーパーホルダーがありませんでした。

左の写真は共用スペースでスイカを食べた時のものです。この部屋には皆で集まって遊んだり、インターンの面接を受けたり、鍵が無くなって扉が開かなくなったりと色々な思い出があります。また、私も行くまで知りませんでした、カザフスタンのスイカは本当に美味しいです。とっても甘くて安くてジューシーです。

2日目：キャンパスツアー

2日目は歓迎セレモニーとして現地担当の教員からプログラムの概要が説明されました。その後朝食でお弁当を食べましたが、これが大論争を呼び起こします。

献立はチーズ入りパンケーキクレープとナッツ、追いチーズです。3分の2がチーズでした。チーズは新鮮でおいしくはありましたが、流石に量が多すぎて食べきることはできませんでした。私が観測した限りで食べきれていたのは国際総合学類2個下の後輩一人だけだったように思えます。ワインが欲しかったです。これがカザフスタンスタANDARDかと思いましたが、その後様々な料理を食べる中で、この献立が下の中だと分かりました。



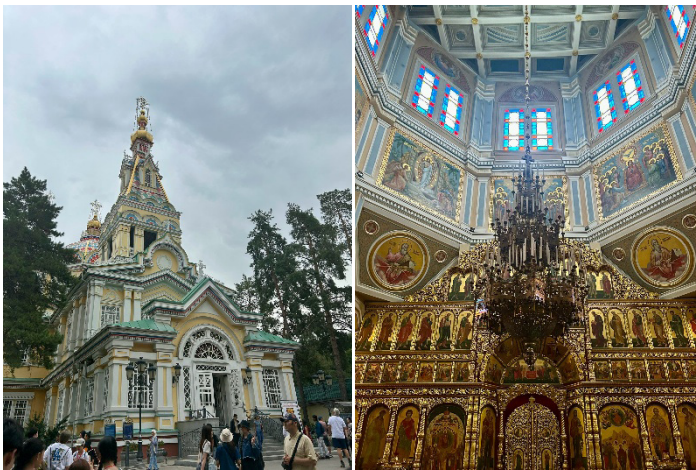
キャンパスツアーでは様々な研究施設や図書館を巡りました。大学を南北に貫く大通りがあり、入り口には大学の名前の由来にもなった中世の学者アル・ファラビの巨大な銅像が立っているなど全体的に規模が大きかったです。筑波大とは違い大通りは自転車など乗り物の使用は禁止とのことで（破っている人もいましたが）、歩行者が多かったのも印象的でした。



建物では特に図書館（左写真）がとても大きく、博物館のような展示が多く置かれてたのが面白かったです。図書館とは分離されていますがセレモニーホールや遊牧民の暮らしを再現した一角もあり、国内最高峰の大学として威厳が必要なのだと感じました。研究棟にはドローンやロボットが多く置かれており、中国資本がかなり出資している印象でした。



余談ですが、トイレに鳥がいました。けっこう驚きます。キャンパス内を巡っていました。カササギのように見えますが（右写真）、カザフの人たちはこの鳥を幸運の象徴として扱っているみたいです。



3日目：シティツアー

大学横の植物園やゼンコフ正教会を地下鉄やバスで巡りました。特に正教会は流石の豪華絢爛さでした。

教会内ではイコンを対象として様々なお祈りをしている方々がいたのが印象的でした。一緒にツアーを巡ったカザフ学生のA

くんはムスリムと言っていたので、入っても大丈夫か聞いてみた所、オルタナティブなムスリムなので大丈夫と言っていました。1日5回のお祈りも特になく、適宜神に祈るみたいです。外務省によればカザフスタンは69%がムスリム、17%がクリスチャンとのことで、その現場を垣間見た感じがしました。



■ 4、5日目イル・アラタウ国立公園ハイキング

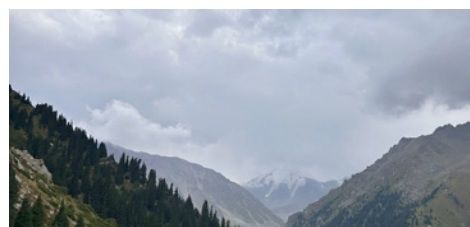
プログラムのメインイベントである1泊2日のハイキングです。アルマトイは南側がすぐ山脈になっており、キルギスとの国境に繋がります。イル・アラタウ国立公園はその山岳地帯に広がり、カザフ全体で14ある国立公園の一つです。ハイキングは登山口手前のキャンプ場兼観光施設にバスで向かいテントを張るところから始まりました。公園に入ってからはずっと上り坂だったのですが、意外にも市内より自転車が多かったです。

キャンプサイトにテントを立ててから大きな荷物を置き、登山リュックの雨蓋を小さいリュックに変身させて滝や溪谷を見る軽いトレッキングに出かけました。気持ちよかったです。夜にはキャンプファイヤーをすることができ、火を囲みながら色々な曲を歌いました。楽器やスピーカーが欲しかったのですが、皆で歌う Queen の We will rock you は楽しかったです。



ハイキング2日目は1日かけて朝からビッグ・アルマトイレイクを目指します。多分湖の水を運んでいる大きなパイプラインの横を通り、ひたすら登りました。やっと到着した湖は本当に大きく、小高い丘からは辺りを取り囲む山々が一望できて爽快でした。

奥の山には氷河が残っていました。ベースキャンプに戻って食べたペンネパスタ、サラダ、パン（右下写真）と砂糖をたっぷり入れたレモンティーがとても美味しかったです。



7日目：チャリン溪谷

アルマトイから東に200kmほど離れているので、バスに3～4時間揺られて移動しました。無事に最前列を確保することができたので、運転や前方の様子を見ながら移動することができて楽しかったです。

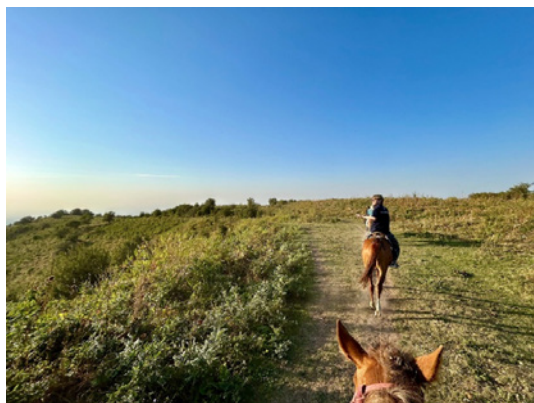
アルマトイから東に行くにしたがって、景色が市街から畑、草原、砂漠へと移り変わっていきます。特に草原に入ってからほどまでも続く人工物のない地平線に感動しっぱなしでした。

そして一応飼われているとのことですが、蔵も手綱も付いていない馬が沢山いて景色とのマッチングに痺れました。チャリン溪谷では谷筋を降りてオアシスを見に行く往復5kmのハイキングをしました。風化・浸食・運搬の作用が良く見えて面白かったです。帰りのバスは中央線もないような砂漠の狭い道を時速100km出して走っていました。



9日目：プレゼン、乗馬

午前中の最終プレゼンでプログラムは終了したので、午後から乗馬ツアーに行きました。行きの車の中で馬の後ろに立たないといった注意事項や踵で叩いてアクセル、手綱を引いてブレーキ、左右を伝えるなど基本の乗り方を教わります。馬なんて体験でしか乗ったことありませんでしたが、力強く草原や山の中を歩いてくれて頼もしくすぐに好きになりました。栗毛だったのでチョコと呼ぶことにしました。2時間半ほどの乗馬を終えて頂いたお茶と揚げパンが体に沁みました。



■10、11日目：市内観光

戦争博物館では多くの戦車や兵器が展示されていました。T54やT34-85などソ連時代を代表する戦車を見れて感慨深かったです。室内にはWW2時の対日参戦の記述もあり、カザフスタンがソ連の構成国の一つであったことを実感しました。



アルマトイ中央モスクは日本では見たことがないほど大きく、空間の荘厳さと静けさに圧倒されました。モスクの前では子供たちが野良犬（耳に青パッチがあるのは自治体による管理らしい）と遊んでいて、私も混ぜてもらいました。狂犬病の可能性があるので海外で不用意に動物へ近づくのは避けた方が良いですが、とても大人しく、可愛さに負けました。



アルマトイ美術館では草間彌生さんの作品（左写真）が展示されており、水玉に支配された鏡張りの部屋に2分程度閉じ込められるというシステムでした。体中で草間さんを感じました。プログラム中に訃報を知ったので不思議な気持ちになりました。良かったです。



■おわりに

カザフスタンはとにかく広大です。どこまでも続く草原や砂漠、地平線を見ていると、自分が生まれた日本が島国であることを強く実感しました。

同時に都市部ではデジタル化が進みQR決済や監視カメラが普及しており、カザフ出身の院生でTAを務めて下さったAさんの研究内容「政府のデジタル化」という言葉と合わせて印象に残りました。同時に強い日差しを避

けるためか街路樹が沢山植えられており、緑の多い街並み（右上写真：市内西の展望台コクトベからの景色）はベンチの多さと相まって過ごしやすかったです。ゴミ箱も至る所に設置されていました。



カザフスタンの地理や観光について学びながら、ほとんどが初めて話す日本やカザフの学生たちと様々な活動を行うのは大学の修学旅行みたいで楽しかったです。様々なトラブルはありましたが、このプログラムは今回が初開催とのことなので、今年の実験を踏まえながらより良いプログラムになっていくことを期待します。カザフ語、ロシア語も話せるようになりたいですね。

(社会・国際学群 国際総合学類4年 結城希)

5. インド GOGOGO!



お久しぶりです。知識情報・図書館学類4年の山田久美子です。今年の8月に学生のうちに一度は行ってみたいと思っていたインドに旅行をしたので、それについて書いていこうと思います。

・インドに行くと人生観が変わる？

「インドに行くと人生観が変わる」と聞いたことがある人もいないのでしょうか。私もどこかで聞いたことがあり、「生き方、考え方を考えるならインドしかないでしょ!!」と思い立ったことがきっかけです。なぜか、他の国では聞いたことがありません。また、私は今まで台湾、タイ、セブ島の三か所に行ったことがあるのですが、それらのどの国でも「人生観変わったな～」とは思いませんでした。もちろん、日本との違いやそれぞれの国の文化の面白さ、料理のおいしさに感動はしたのですが。

インドと今まで行った他の国との違いは、ぎょっとするような経験がその国の日常だったかどうかなのではと思います。牛が街を普通に歩いていたり、物乞いに声を掛けられたり。日本で普通に暮らしていたらありえないし、信じられないことがインドでは当たり前で、その違いに圧倒されて考え方が変わるのではないかとインドから帰ってきた今思います。

ちなみに、人生観を変えたいと思ったのは去年冬に付き合っていた人に振られたことがきっかけです。インドにある日本人宿に4泊したのですが、その際にインドに来たきっかけを何人かに聞いてみました。すると、「遠藤周作の『深い河』を読んで」や「会社をクビになったのでその足で」など、教養の深さが行動ににじみ出た回答やその人のアグレッシブさと前向きさが出た回答をもらい、自分の浅さにびっくりしましたが、「まあ、これはこれでいいんじゃないかな～」という気持ちです。

・野良犬、野良牛

インドには野良犬、野良猿、野良牛（?!）がたくさんいます。道を歩いていると暑さでへばって寝ている犬や、のそりのそりと歩く牛を見る事ができます。意識しなくても目に入ってくるくらい、というか意識しないと踏んでしまいそうくらいカジュアルにいるので注意が必要です。



図1 ガンジス川



図 2 インド到着二日目にSNSにあげた写真（この時点ではまだ驚いているが、これ以降牛の写真撮る事はなかった）

牛については、インドで約8割の人が信仰しているヒンドゥー教で神聖な動物として崇拝されているので「そういうもんか」くらいに思っていました。しかし、旅行中に読んだ『深夜特急3—インド・ネパール—』の中で、肉をあまり食べないインド人にとって、牛乳が出る牝牛は大事な財産であるが、雄牛は餌を消費するだけのやっかい者になってしまい、かといってヒンドゥー教における聖なる動物を殺して食べるわけにもいかず、結果的に野良牛が生まれてしまう（沢木 2020, pp. 54）ことを知りました。確かに、意識して牛を見てみるとどの牛も雄牛で、私が見た中だと牝牛は一頭もいませんでした。道を歩いている牛はどの牛もガリガリで骨が浮いて見えて、神聖な動物として扱うことの意味について考えさせられる出来事でした。

そういえば、1週間の滞在の中で野良猫を見る事は一度もありませんでした。そもそもインドには猫がないのか、たまたま見ていないだけなのか、それとも他の理由があるのか。真相は謎のままです……。

・念願ガンジス

1週間の旅程の5日目の朝、念願だったガンジス川での沐浴をしました。こうやって真面目な文章で書くとあまり念願という雰囲気が出ませんね。気持ちとしては「念願！！やっとな！！！！！！！！！！」という感じです。私が訪れたバラナシはヒンドゥー教、仏教の一大聖地であり、インド内外から大勢の人が集まる場所です。街中はヒンドゥー教で聖なる色とされているオレンジ色の布を身にまとった集団が沢山いて、首都デリーやタージマハルがある都市アグラとは全く異なる雰囲気を感じました。私は特定の宗教への信仰がないので、信仰のために人生をおそらく捧げている人や、信仰心からこの聖地・バラナシへ赴いたのであろう人々を見てどのようにその人達の熱意や気持ちを理解すればいいのかよく分かりませんでした。私にとってガンジス川での沐浴は人生観が変わりそうだからなんとなくやってみたいものでしたが、

自分から縁遠いと感じる文化や考え方を理解するという理由が、バラナシに来て増えた気がしました。

沐浴には様々やり方があるらしいのですが、ここではガンジス川で沐浴していた現地の方に教えてもらった方法を紹介します。

- ① まず靴を脱ぎ
- ② 水をすくって川の太陽の方向に高くかけ、頭にかける
- ③ 頭まで5回浸かる

色々な場面でインドの人の優しさを感じたのですが、外国人で、作法も何も分かっていない私にやり方を教えてくれたことに特に優しさを感じました。

最初、私は「ガンジス川は世界一汚いらしい」という事前情報にびびって顎のあたりまでしか川に浸からなかったのですが、もうここまできたら同じかもという謎の達観状態になりきちんと5回、頭まで浸かりました。想像していたような匂いはなく、死体が浮いているということもありませんでした。沐浴後はむしろ気持ちよさすら感じたので、ネットの情報や聞いた話だけでなく自分で実際にやってみることの重要性を改めて感じました。



図3 頭までガンジス川に入った（緑色の浮いている布が筆者の頭）

・めちゃくちゃ体調不良になった話

沐浴した日の昼から食欲がわなくなり、夜には完全に体調を崩しました。寝台列車でタージマハルのあるアグラまでの移動中は頭痛や寒気を感じながらとうとう寝たり、トイレで起きたりの繰り返しでした。約13時間で実に10回以上行きました。（トイレの写真を撮っておけばよかったのですが、あまりにも体調不良すぎて一枚も写真がないです泣）人生で最も悪い状況での体調不良でしたが、ここでもインドの人は優しく、つたない英語で体調不良ということを伝えると「チャイいる？」などと聞いてくれました。



図 4 体調不良in夜行列車

アグラに着いても体調は悪いままでしたが、タージマハルを見ているときだけは、あまりにも素晴らしすぎて体調不良も30分くらいは吹き飛びました。その後、夜に電車移動する予定を急遽変更し、昼に高速バスで宿泊予定のデリーのホテルへと向かいました。ホテル到着後、具合はまだ良くなりずホテルにお医者さんをお呼びでもらい診察と処方箋をもらいました。自分の体調不良を英語でうまく伝えることができず、EPS（1年次の必修英語。English Presentation Skillsの略）やERS（同じく1年次の必修英語。English Reading Skillsの略）をどうしてもっと真面目に受けなかったのだろうかと思いました。英語、大事。正確な情報が求められる場面でのジェスチャーの限界を感じました。

・筑波大学卒業生とインドの関わり

ペデジャーなるはOG・OBの方々向けのメールマガジンということで、卒業生とインドとの関わりについても触れたいと思います。私は地元・長野で就職する予定なのですが、就職予定の企業がアジアとの連携に力を入れているそうで。自分自身の将来の展望として、海外に係る仕事がしたいと考えているのでもしかしたら海外同窓会のお世話になることがあるかもしれないと思い調べてみました！

開学50周年となった2023年から、新たな海外同窓会組織設立促進のための組織TUANが誕生しました。これは海外の同窓生のみを対象にしたものではなく、目的に賛同する卒業生のみなさん、私達学生、そして教職員のためのネットワークだそうです。インドではこのTUAN同窓会が既に5回も開催されているそうで、現在のインド筑波大学同窓会の会員数は16名だそうです。インドの広さ、そして筑波大学の同窓生の多さを考えると少ない！ぜひ皆さんTUANに入って同窓会を盛り上げてください。私の就職（予定）先はインドに派遣先を持っているようなので、派遣された暁には同窓会に参加したいなと思っています。今から楽しみです！

参考文献

外務省 インド

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/india/data.html#section1>

最終閲覧日：2026年9月10日

沢木耕太郎 (2020). 深夜特急3ーインド・ネパールー 株式会社新潮社

西遊旅行 バラナシ

<https://www.saiyu.co.jp/special/india/midokoro/varanasi/>

最終閲覧日：2026年9月10日

筑波大学国際局 TUAN Topics

<https://www.bgi.sec.tsukuba.ac.jp/post-tuan/tuan-topics20260626/>

最終閲覧日：2026年9月10日

編集後記

大学に入ってから迎える5回目の夏休み。那須塩原で1カ月間過ごしたあと、インドへ飛びました。ガンジス川がある聖地バラナシを訪れた際は、現地出身の元筑波大生で、現在は物質・材料研究機構（NIMS）で研究員を務めている方にお会いしました。初対面だったにもかかわらず、家族総出での歓待を受け、ご飯をご馳走してくれ、おまけに駅まで送ってくれました。「筑波」を共通点に、異国の地で生まれた縁を不思議に感じました。今号はそんな海外に出る筑波大生のエピソードを2本お届けしています。それぞれ行き先での気づきや出会いがあり、それを筑波に持ち帰ってさらに発展させていくことなのでしょう。他にも、大学の新たな挑戦としての未来社会デザイン棟の紹介、実験植物園の水草展、そして大学生の夏休みの定番である免許取得、どれも編集員それぞれの実体験を基にした内容です。さて、今号から読者アンケートが始まりました。面白かった、懐かしさを感じた、はたまた物申したいと思った記事があれば、ぜひアンケートで教えてください。編集員一同、皆様の感想をお待ちしております！

人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻1年 加藤緑

アンケートを始めました！
読者の皆さまの「声」が励みになります！
感想やご意見、お待ちしております！

ペデジャーなる夏号2026
読者アンケート



▶[アンケートの回答はこちらから](#)

もしくは右のQRコードからお願いいたします。



X（旧Twitter）で筑波大学の情報を発信しています



事業・リレーション推進室では、大学や在学生の「今」を伝えるため卒業生に向けてX（旧Twitter）で情報を発信しています。

学生の様子、学内の景色や、大学の取り組みなどはもちろん、在学生・卒業生が交流できるような企画を増やしていきます。

卒業生が楽しんでいただけるお知らせやその他イベントについても告知していきますので、ぜひフォローをお願いいたします。発信してほしい情報がありましたらお知らせください。



筑波大学大学基金 <https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/>



編集・発行：「ペデジャーなる」編集ワーキンググループ

デザイン・配信作業：国立大学法人筑波大学事業・リレーション推進室

ご意見・問い合わせ先：国立大学法人筑波大学事業・リレーション推進室

〒 305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1

TEL 029-853-2030 FAX 029-853-6576



メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。

©2026 University of Tsukuba.



「ペデジャーなる」のバックナンバーはこちらから

➡筑波大学メールマガジン『ペデジャーなる』

<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/alumni/pedeja/>



配信先・ご住所などの変更は以下のフォームよりご登録をお願いいたします

➡登録フォーム <https://forms.office.com/r/0ndsbfM04q>